

# はじめの一歩

3月27日(木) ~ 3月28日(金)

IN 西宮市立甲山自然の家

	午前	午後	夜
1日目	公園に向け出発	名札作り レクリエーション大会	キャンプファイア
2日目	清掃、野外炊飯	施設を出発 解散式	

一日目： 朝から怪しげな天候ですが、みんなの元気は最高潮です。大きな「おはようございます!!」からキャンプは始まりました。グループ分けを行い、甲山公園に向けてはじめの一歩名物『大行進』が始まります。みんな、後方のお友達を意識して、「車来ているよー」と積極的に声かけをしていました。また、疲れを見せず一生懸命歩いてくれたので、予定より早く到着する事が出来ました。公園で昼食を済ませると天気も回復し、暖かい日差しが差し込んできました。みんなで名札を作り、野外炊飯の食材を賭けて争奪ゲーム大会を行いました。初めみんなの気持ちはバラバラで、まとまりがあまり見られませんでした。徐々にゲームを通して、声を出し、助け合い、時には注意を促し、グループが一つになるのが分かりました。ゲーム大会もあっという間に終わり、施設に入所するとみんなの表情に『ホッ』が見え、休憩をしていました。夕方のオリエンテーションの時、朝と明らかに違う姿勢を感じました。キャンプに対して本気の気持ちが伺えました。楽しい夕食を済ませ、一日目一番の盛り上がり所、キャンプファイアです。リーダーが楽しいレクリエーションを行い、それに対してみんなも大盛り上がりでした。時間は1時間ほどでしたが、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。施設に戻り、就寝準備と入浴を済ませると一日の疲れがドッと出たのでしょうか。眠そうな目を必死に開けている姿がありました。明日は野外炊飯です。みんなの団結力が楽しみです。



二日目： 朝早くからみんなの声が聞こえ始めました。準備をする声、歯磨き洗面の為に部屋を出る声、眠たいと訴える声…、様々な声が聞こえました。朝食前に部屋の掃除や荷物の片付けなど、やる事が沢山ありましたが、みんな文句言わず動いているので、しっかりとキャンプを意識し、行動しているのだと感心しました。朝食を済ませ、残りの施設の清掃も終わらせると、待ちに待った野外炊飯です。一日目から楽しみにしていたので、みんな早くしたい!!という想いが溢れていました。活動スタートとなると、作業を分担し、予想以上にスムーズに進んでいきました。玉ねぎを切る時、目に染みる〜と訴えている子もいれば、かまどの煙にケホケホ言いながらも一生懸命にうちわであおいでいる子もおり、皆の必死を感じることができました。全てのグループの食材が異なる為、内容も全く違い、「うちのグループが一番美味しい!!」と自慢気に話してもらえました。完成した料理をどのグループも残すことなくキレイに食べ切りました。片付けも遊ぶことなく、役割を分け、一つ一つ丁寧にされていました。時間も順調で、全員が満足いく野外炊飯だったと思います。野外炊飯の片付けも終わり、施設から荷物を出し、出発の時間です。施設の前で全体写真を撮り、来た道を帰ります。キャンプで疲れてフラフラですが、最後の力を振り絞って、仁川に帰ります。元気な声、陽気な歌声が最後まで出ており、メンバーみんなの元気さは最後の最後までありました。仁川に到着し、仁川解散のお友達と別れを告げた後、尼崎に戻りました。尼崎にて全体解散した後、それぞれの集合場所に帰りました。今回のキャンプが野外活動デビューとしてこれからも沢山のキャンプや日帰り活動に参加していただきたいです。



## <キャンプ総括>

子どものキャンプデビューを「はじめの一歩」からされる方が沢山おられます。我々からすれば一泊二日「しか」と思うのですが、参加者からすれば一泊二日「も」と途方もない時間なのでしょう。活動の時間が経過していくのと同時に様々な表情が伺えます。その中でも特に大事にしているのが『不安な表情が笑顔に変わる瞬間』です。子どもの気持ちは物事に左右がされやすく、「キャンプ=不安」から「キャンプ=楽しい」と気持ちの変化が参加者の心の中で起こります。そこからどれだけキャンプに興味を持ち、吸収してもらおうかが重要と考えています。キャンプデビューとして『楽しい』をまずは感じてもらうなければなりません。その上で、何が楽しかったのか?何故楽しかったのか?を持ち帰ってもらいます。その想いが今後のキャンプに深く影響してくると我々は考えています。キャンプは一度きりではなく、はじめの一歩、ここからがスタートです。(竹中 哲郎)